

【研究課題名】

腎細胞癌からの脳転移定位放射線治療に於ける免疫チェックポイント薬・分子標的薬が与える影響について

研究の概要：

数年前まで腎細胞癌に対する有効な薬物療法がない時代が長く続いていました。このため進行期腎細胞癌患者の予後は大変不良でした。しかし、近年の免疫チェックポイント阻害剤、新規分子標的薬の相次ぐ登場により進行期腎細胞癌患者の生命予後は大きく改善しています。これに伴い転移性脳腫瘍に対する治療の考え方も大きな変革の時期を迎えつつあります。以前から腎細胞癌の脳転移に対しては定位放射線治療が広く適応されています。腎細胞癌は放射線抵抗性腫瘍として知られるところですが、定位放射線治療に免疫チェックポイント阻害剤、新規分子標的薬が組み合わされることにより、果たしてどの程度予後の改善や局所治療効果が上乘せられるか、治療毒性が増強しないかといった点については未だ十分に解明されていません。本研究の目的はこの臨床的疑問に答えるところにあります。

研究対象：

2010年9月から2021年3月までに相澤病院ガンマナイフセンターにて、腎細胞癌からの転移性脳腫瘍に対してガンマナイフ定位放射線治療が行われた患者さんの診療録を対象とします。

研究の意義：

定位放射線治療に免疫チェックポイント阻害剤、新規分子標的薬が組み合わされることにより、どの程度予後の改善や局所治療効果が上乘せられるか、治療毒性が増強しないかといった点を明らかにすることは、今後治療法を選択する際の一つの指標となり、治療成績の向上に寄与すると考えられます。

研究の目的：

免疫チェックポイント阻害剤、新規分子標的薬の併用の有無により生存期間や頭蓋内病巣の局所制御率、治療関連有害事象の発生率にどの程度の差が存在するかを明らかにすることです。

研究の方法および内容：

相澤病院の診療録データベースを利用して、診療録より必要な情報(患者背景、臨床経過、手術所見、術後経過)を収集し、統計学的な解析を行います。情報収集の作業に当たっては研究責任者がこれを行います。

個人情報に関する配慮：

人体から採取された試料ではなく、診療録を主とした既存資料を研究に用います。閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されない方法で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用 to 別途割り振られた研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

研究責任者：

〒390-8510 長野県松本市本庄 2-5-1

社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 がん集学治療センター

ガンマナイフセンター 四方聖二

TEL 0263-33-8600 / FAX 0263-32-6763